

令和8年1月22日

令和8年度に向けた改善計画

世田谷区立北沢中学校長 築瀬 学

関係者評価委員会報告書においていただいた提言について、以下のとおりに対策をまとめましたので報告いたします。

1 学習指導について

生徒の学習に関する回答は、総じて肯定的な評価が高い。特に「先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、わかりやすい授業をしている。」の肯定的評価は 84.6% に達している。また、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」の肯定的な評価は 84.2% であった。教員がわかりやすい授業を実践し、生徒は授業の中で、主体的に学習に取り組む体制が整いつつある。定期的に行う、管理職による教員の授業観察では、「教師がどのように教えているか」、ということよりも、「生徒がどのように学びを進めているか。」という、授業における生徒の動きを中心にした視点で行っている。生徒が主体的に参加する授業のあり方を、今後もそれぞれの教師が考え実践し、生徒自身による探究的な学習を進めていく。

2 生活指導について

生活指導についての全ての項目に対して生徒の肯定的な評価が 80% を超えている。特に生徒の「私は、学校での過ごし方のルールについて考えて行動している。」の肯定的な評価は 88.2% であり、9 割近い生徒が、学校での過ごし方について考えて過ごしていることが分かった。この生徒の意識を大切に、今後も生徒指導にあたっていくことが重要である。生徒の声を聞きながら、生徒が中心となって学校生活を送ることができるよう指導助言を与えながら、生徒の自己指導能力の向上を目指す。

3 キャリア教育について

キャリア教育では、単に進学先を決めるということではなく、職業観、人生観を育むことが重要である。したがって、1 年次より様々な進路や職業についての学習や体験をこれまでも行っている。アンケートでは、生徒の「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」の肯定的な評価が 76.9%、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」の肯定的な評価が 77.9% と 8 割近い結果が得られた。生徒のキャリア教育に対する理解は進んできてはいるが、今後も具体的で多様な情報提供をしていかなければならない。

また、キャリア・パスポートの活用については今後も改善の余地がある。教員と生徒の双方向のやりとりや面談での活用など積極的に取り組んでいく。

4 ICT 関係について

今や ICT 機器は学習活動にとどまらず、学校教育の大部分において活用されている。生徒が自ら学びを進めたり、行事等の準備や活動で使われたりしており、必要不可欠なものになっている。一方で、SNS をはじめとした個人的な活用による、トラブルが発生していることも現実にある。ICT 機器や SNS の適切な活用法については、定期的に指導を継続していくと同時に保護者や関係機関と連携していく必要がある。

5 保護者・地域への情報提供について

アンケートにおける「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報提供している。」の保護者の肯定的な評価は 89.7%であった。また「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」でも肯定的な評価が 87.9%であった。また、「学校からのお知らせ、(学校だより) などにより、学校の様子が分かる。」の地域の肯定的な評価は 100%であった。このことから、学校からの情報提供については、保護者・地域とも一定の理解は得られているようである。ホームページでは、学校の様子を毎日更新していたり、必要なお知らせや情報はすぐ一を活用したりしている。今後も日常的に学校のことについて発信していく。